博物館だより 2019　No.47

令和元年 10 月 18 日発行／士別市立博物館

今から約2ヶ月前の8月下旬、3名の博物館実習生を受け入れ、博物館業務を体験してもらいました。それを受けて、今回の博物館だよりでは改めて士別市立博物館の学芸員について簡単に説明したいと思います。

知っているようで知らない士別市立博物館

2019年10月現在、士別市立博物館には正職員４人、臨時・嘱託職員２人、清掃員1人の計7人のスタッフが勤務しています。全員が協力して、展示や講座の準備、博物館の管理業務等を進めています。

その中で博物館の専門的な部分を任されているのが「学芸員」という人たちです。

- 博物館協議会
- 特別学芸員
- 博物館ボランティア友の会

の皆さんにもご協力いただいています。

①学芸員とは？

博物館や美術館などに置かれている専門的な職員です。学芸員資格という国家資格を持っていて、公立や私立の博物館などで任用されると学芸員として働き始めることができます。

「博物館」という施設として法律的に認められるには、簡単に言うと「学芸員がいないとだめだよ」と博物館法で定められていますので、もちろん士別市立博物館にも常駐しています。

【 士別市立博物館 】

学芸員２人

専門；生物学（鳥類）

専門；日本史学（古文書）

学芸員ではないが学芸員資格を持っている職員２人

現博物館長

現嘱託職員

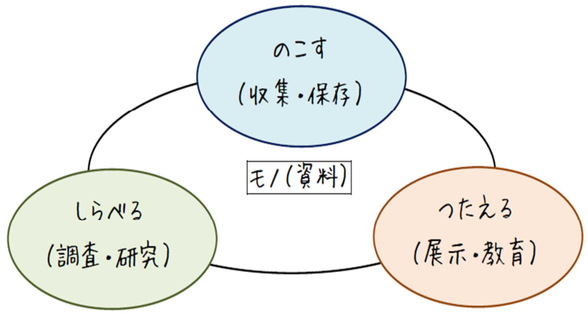
【士別市立博物館特別学芸員 】

- 2019年10月現在　12名
- 博物館だより45号でも紹介
- 士別市立博物館独自の制度
- 常駐しているわけではない

②学芸員はどんなことをしているの？

博物館には「収集・保存」，「調査・研究」，「展示・教育」の3つ（あるいは展示と教育を分けて４つ）の機能・役割があり、学芸員はそれらについて取り組んでいます。

つまり学芸員の仕事を一言で言うと、地域の歴史や自然について残したり、調べたり、伝えたりするのが仕事です。



以前北海道新聞でも紹介されていた、博物館の仕事の裏側を描いている漫画『へんなものみっけ！』では、博物館や学芸員の仕事をわかりやすく紹介しています。ぜひご一読ください！

博物館実習生が来てくれました！

裏面も見てね

学芸員資格を取得するためには、博物館で5日以上の実務を体験する必要があります。

士別市立博物館では学芸員資格取得を目指す学生からの問い合わせが度々あり、その都度日程などを調整し対応しています。

今年度は3名の学生さんから依頼があり、8月21日～25日までの2人と、8月21日～29日までの1人を受け入れ、資料整理や展示製作、講座準備・補助など博物館業務を研修してもらいました。

2019年度　博物館実習　研修内容

【 調査 】

きのこ展用サンプル採集

【 文化財整備 】

屯田兵屋清掃

【 資料整理 】

- 絵画資料の目録作成
- 寄贈資料の収受
- 骨格標本作製

【 展示製作 】

←体験コーナー製作作業

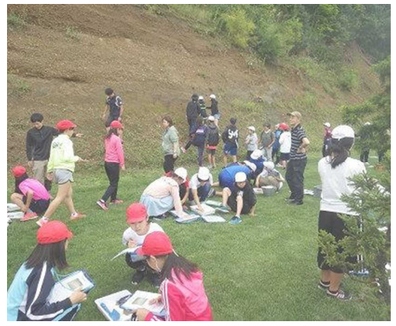
ジオラマ↓

- 考古体験コーナー製作
- 天塩岳ジオラマ製作
- 館内案内パネル作成

【 教育普及 】

- 出前講座「地層の学習」補助
- レジデンスワークショップ補助

出前講座の補助 →



展示製作や展示準備のためのフィールドワーク、地域への教育普及活動、資料整理など、現場での学芸員業務を経験してもらうことで、地方の博物館の良さや課題などを知るきっかけとなったようでした。

今回の実習を終えて、学生さん3名から感想をいただきました。裏面に掲載していますのでぜひご覧ください。

お申し込み お問い合わせ先

〒095-0056
士別市西士別町2554番地
士別市立博物館

【電話・ファクシミリ】(0165)22-3320
【メール】
hakubutsukan@city.shibetsu.lg.jp
【ホームページ】「士別市立博物館」で検索
※ホームページ QR コード→

士別市立博物館での実習について

東海大学　菊池　彩加

8 月 21 日から 25 日の 5 日間、短い間ではありましたが大変お世話になりました。
実習に参加する前は、大学の講義で学んできた学芸員の仕事を体験するものという大まかな想像をしていました。

実習の中で、展示の制作を行った際に展示の正解は一つではないということを改めて学びました。大学の講義で展示パネルを作成した時もそれぞれ学生によって異なっていて、それぞれに良さがあるというのを学びました。そのうえで、今回の実習ではどの展示制作でも最終的に一つのものを作るため、よりよいものを目指して制作していました。
目的に合わせて今ある案をさらに良くするにはと考えて制作していましたが、実際に展示場所に置いてみるとさらに様々なパネルや資料があると利用しやすくなるのではと感じました。大学の講義では多くの展示方法やデザインなどがあることを知りましたが、実際の展示をすることによって答えが一つでもなければ展示して終わりということでもないのだと気づきました。

学芸員として自分の研究分野に関わらず幅広い分野と様々な工夫の展示や体験、そして資料保存や情報活用が求められるものなのだということを学びました。実際に現場で、学芸員として求められているものが何であるかを再認識しました。

館園実習に臨んで

札幌大学　政田　亜衣

今回の士別市立博物館での館園実習では、主に大きく分けると、展示資料の作成、美術資料の整理・目録作成と、教育普及活動を体験させていただきました。

展示資料は、土器修復体験コーナー、天塩岳のジオラマと案内パネルを制作しました。制作作業では、机上では学びきれない、ジオラマの制作方法やパネルの扱い方などの技術を学ぶことができました。

美術資料の目録作成では、博物館内の他にも、朝日支所や図書館でもたくさんの美術資料が収蔵されており、それらを撮影、記録することで、美術資料の扱い方を学ぶことができました。

教育普及活動では、南小学校の地層の学習の他に、北星保育園や南中学校美術部では、しべつアーティスト・イン・レジデンスで士別に滞在していた版画家の方が行うワークショップの補助をさせていただきました。

博物館の活動の中で、資料の取り扱いや研究活動だけではなく、教育活動も盛んに行われていることと、学校や保育園との連携が成されていることがわかりました。

これら以外にも様々な体験をさせていただきましたが、どれも大学の授業では学びきれないことばかりで、戸惑うこともありましたが、全てが非常に貴重な体験でした。

学芸員の仕事は、活動の幅が大きく、大変であると共に、とてもやりがいのある仕事であると感じました。

士別市立博物館での実習を終えて

札幌市立大学　松ヶ平　詩織

1.実習を依頼した経緯

私はこれまで博物館概論を通して、絵画など美術作品を中心に資料の取り扱い方を学んできました。そのため実習では総合博物館で、美術作品以外の資料の取り扱い方を学びながら地方の博物館の現状を知りたいという思いがあり、士別市立博物館に実習を依頼しました。

資料の取り扱い方で一番印象的だったのは鳥の骨格標本作りを体験させていただいたことです。鳥の死骸を洗浄しパイプユニッシュなどで不純物を溶かす工程を初めて学び、博物館で展示されている標本の一部はこのような過程を経て展示されていたのだと展示物を深く知るきっかけになりました。

2.実習を通して考えさせられた地域博物館の存在

現在の士別市の人口は2万人をきっており、博物館の立地もあまり交通の便が良い場所にあるわけではありません。それ故、正直にいって実習前は毎日来場者は 0 人なのだろうと思っていましたが、実習中に観察してみると、帰省してきた若者や家族連れなど幅広い層の来場者が毎日一定数訪れている様子でした。また、「なぜ輪島功一のベルトがここに飾られているのか？」といった問いかけをする方も見受けられ、驚いたと同時に地域のアイデンティティ形成の場、市民の社会教育の場として機能している大切な場所なのだと考えを改めさせられました。

地方の博物館の多くが経済的な理由により運営の危機にあるように、士別市立博物館も例外ではなく、限られた予算と人数で運営しているのだと館内の収蔵庫や資料の保管場所の様子から拝察しました。地域博物館には地域博物館の役割があり、予算の削減を理由に容易に無くしていいものだとは私は思えません。来場者数などの数字を評価の指標にするのではなく、「地域に支えられて経営されている一方で、出前講座など様々な活動を通じて地域住民の役に立つという好循環がある事」それが評価されて今後も士別市民の大切な社会教育の場としてあり続けて欲しいと思いました。

3.終わりに

概論で芸術の森美術館のことを学び、実習を貴館で受け入れていただけたことで、都市と地方双方の博物館の実状を知る事ができました。今回の実習を通して、地方の博物館が実際に直面している課題など、座学としてではなく実際にこの目で見たからこそ考えさせられたことが多くありました。私は現在どこかの館の専任の学芸員になりたいという意思はありませんが、将来的には士別市立博物館の特別学芸員のように一市民として博物館のことをお手伝いできる人になれればと思っています。すぐに案は浮かびませんが、地方の博物館を今後守るためにも経済的な面だけでなく、市民ボランティアの参画を促す仕組みなどデザインの領域で解決できる博物館の課題はないか今後も考えていきたいと思います。

3人ともお疲れさまでした。
実習先として士別市立博物館を選んでいただきありがとうございました！